錦堂老兄
侍史

先日田中伯と縦談之際市島先生
の事并小生の事なと出候処伯
ハ感興頗る深く機會を以て一夕ゆるり
と物語りいたし度と被申候平常伯ハ先
年珍籍之古書を早稲田之図書館に
寄贈し居るハ全く市島先生が同館を
主宰し居られ候為にして若し他人
が館長なりせば寄贈すへきに無之なぞ
懐旧談を承はり候然るに其後市島先
生の図書館長を引退せられし由伯
の耳に入り一首の和歌を詠し該懐を
展べられたりとて小生に申聞けられしが
小生の意外なすへきかと思はれしものと見
へ該歌ハ新聞の通信他の用事の書に其
の歌を記して寄せられ候市島先
生も伯を知り居て兼て市島先生を
知るの一治とすへく候得共直に先生
に御通じ之様令存候ハ当方述の次第に
詳し且新聞発生の分目に掛け
御覧に供し度早々頓首

十月十九夕
康太

小鶴老兄
侍史

追而新聞ハ小生都合にて市島先生に
小あけ切りまて宜敷